報告日　令和7年11月26日
報告回次　　1日目

令和７年度　地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

１．申請団体情報

１－１．申請団体

団体名	洲本市立洲本第一小学校			代表者名	校長　尾崎　元彦
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	学力向上・研修検討委員会	連絡先電話番号	0799-22-4474
担当者役職	教諭	担当者氏名	上田　侑弥	連絡先E-mail	
住所	656-0012　兵庫県洲本市宇山１－１－３７				

１－２．推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

１－３．支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	文部科学省リーディングDXスクール事業
概要	児童が自ら問いを立て、主体的に学びを深める授業づくりの実現に向けて、探究的な学びを日常化するカリキュラム構成や、デジタルツールを効果的に活用した授業デザイン・評価の在り方について指導助言を求める。特に、教員間の実践格差を解消し、非認知能力の育成につながる指導の工夫を全体で共有・深化できるよう支援をお願いしたい。		
支援を求める分野	教育情報化／情報教育		

２．地域情報化アドバイザー派遣実績

２－１．対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月21日	支援・助言&講演(実地)	10時00分	17時00分	45
				活動時間（分）	375
２－２．派遣場所	会場名	洲本市立洲本第一小学校		最寄駅	洲本バスセンター
	所在地	兵庫県洲本市宇山１－１－３７		最寄駅からの交通手段	徒歩

３．派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤村　裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	本校のこれまでの取組資料に事前から丁寧に目を通していただき、当日の授業公開や研究協議においても、学校や地域の実情を踏まえたうえで的確なご助言をいただきました。児童の学びの様子だけでなく、教師の発問や板書、デジタル機器の活用の仕方、評価や振り返りの位置付けなどを総合的に見て、「うまくいっている点」と「さらに高められる点」を具体的に示してくださったことで、教職員が自校の実践を前向きに振り返る視点をもつことができました。また、指摘や助言の際には、本校教職員や児童の努力をまず丁寧に認め、そのうえで今後の方向性を分かりやすく提案してくださったため、教職員が「自分たちならこれからも改善していける」と感じられる、大変温かく建設的なご指導でした。地域情報化アドバイザーとして、教育DXの理念と現場の実感を結びつける見通しを示していただき、本校の今後の研究推進にとって大きな示唆となりました。
アドバイザーへの要望事項	今回いただいたご助言をもとに、今後も授業改善と教育DXの取組を継続的に発展させていきたいと考えております。つきましては、可能であれば次年度以降も継続的にご指導いただき、授業改善の進捗や児童の変容の様子をご覧いただきながら、中長期的な視点での助言を賜れれば幸いです。また、本校だけでなく、近隣校や市内全体の取組の底上げにもつながるよう、今回の示唆をふまえた研修会や情報共有の場づくりについても、引き続きご助言・ご協力をお願いしたいと考えております。

４．依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

４－１．支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	74人
属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	72	0	1	1

４－２．支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	リーディングDXスクール事業の指定を受け、児童1人1台端末や各種デジタルツールを活用した授業改善を進めてきましたが、 ・デジタル活用が「作業の効率化」にとどまり、児童の主体的・協働的な学びの質の向上と十分に結び付いていない ・教員によってICT活用の力量や授業づくりの見通しに差があり、校内での実践格差が生じている ・児童の学びの変容（主体性・対話・思考の深まり等）を、どのような視点・方法で評価し、次の授業改善につなげるかが整理しきれていない ・本校の取組を、教育DXの理念や国の方針と関連付けて言語化し、対外的に分かりやすく発信することが難しい といった課題がありました。これらを整理し、学校としての研究の方向性と具体的な改善の手立てを明確にする必要がありました。

支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	・本校のリーディングDXスクール事業の位置付けと研究テーマを再確認し、「児童の主体的な学び」と「デジタル活用」を結び付けた授業改善の方向性を明確にすること ・授業デザイン、児童の学びの追跡、評価・振り返りの在り方について、教員が共通理解をもてる視点を提示していただき、校内研修の質を高めること ・校内研究発表会における公開授業および協議の内容について、外部専門家の視点から強みと課題を整理し、今後の継続的な改善計画につなげること ・本校の実践を、市内他校や地域にひろく共有できるよう、教育DXの観点から整理されたメッセージや発信の方向性を示していただくこと
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	事前に、本校が作成した研究構想資料や授業実践の記録をご覧いただき、学校の実情やこれまでの取組を踏まえた準備段階での助言を受けた。 研究発表会当日は、複数学級の公開授業を参観していただき、児童の学びの様子、教師の関わり、デジタル機器の活用の仕方、評価・振り返りの位置付け等について詳細なご意見をいただいた。 全体会では、本校の研究テーマ「主体的な学びを育む授業改善」と教育DXの理念を結び付けながら、うまく機能している点、今後さらに高めるべき点を整理してご講話いただき、教職員の理解を深める機会となった。 併せて、市全体での情報教育・教育DX推進の視点から、本校の取組がどのように波及効果をもち得るかについても、他校との連携や研修の在り方に関する具体的な示唆をいただいた。
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	・本校の授業改善の「強み」と「今後の課題」が整理され、教職員が自校の実践を客観的に捉え直すことができた。特に、児童の主体性や対話の場面で「すでにできていること」と「意図的に仕組むべきこと」の違いが明確になった。 ・端末やデジタルツールの活用について、「使うことそのもの」が目的化してしまう危険性と、「学びの質を高めるための活用」との違いが具体例を通して示されたことで、教員の意識がそろい、次年度以降の授業デザインの改善の方向性がはっきりした。 ・公開授業および研究協議に対する外部評価を得たことで、校内だけでは見えにくかった成果が言語化され、教職員の自信と今後の意欲向上につながった。 ・アドバイザーから示された中長期的な見通し（段階的な授業改善のステップ、市内他校との連携の方向性等）をもとに、学校経営計画や研究計画に反映させることができ、リーディングDXスクール事業を一過性の取組で終わらせないための道筋が明確になった。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。　⑤組織業務改善ができた
	本校において「児童の主体的な学びを中心に据えた授業改善」を学校経営の柱として共有していたことが挙げられます。教職員の間に、授業・指導の質を高めることこそが最も重要な業務改善であるという共通認識があったため、DXの活用も単なる効率化にとどまらず、「授業づくり」「評価・振り返り」「校内研修」の在り方そのものを見直す方向で組織的に進めることができました。また、これまでの1人1台端末環境の整備や、クラウドを利用した校務分掌・資料共有の取組が土台として存在していたことにより、アドバイザーからの助言を受けて、授業記録や児童の学びの様子をデジタルで可視化・共有し、それをもとに協議・改善するサイクルを、比較的短期間で全校的な仕組みに高めることができました。研究主任やICT担当を中心に、管理職が方針を示しつつ現場の実践を尊重する風土も育っており、こうした教職員の協働的な文化が、DXを生かした授業改善・指導改善という形での「組織業務改善」へとつながったと考えています。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	授業改善や指導改善におけるDX活用については、校内で共通の方向性は共有できたものの、学年・教科・教員による取組の深まりにはまだ差が見られます。児童の学びを可視化し、データや記録をもとに授業を組み立てるといった実践は一部の教員で進んでいるものの、全教職員に定着させるには、今後も継続的な研修と伴走支援が必要です。また、児童の主体性や協働性、思考の深まりなど、「見えにくい学び」をどのような観点・方法で評価し、DXを活用して蓄積・共有していくかについては、方向性の示唆はいただいたものの、校内の評価規準やルーブリック、記録様式としてまだ十分に体系化できていません。あわせて、授業改善と校務のDX（時間確保・業務のスリム化）をどのように両立させていくかも、今後の重要な検討課題として残っています。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（ＥＸＣＥＬやＰＤＦでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。
	今回の講演により、教職員は「授業づくりで何を大切にすべきか」という芯を明確にもち直すことができました。理論だけでなく全国の具体事例や4段階の授業形態、問題発見の整理などが示されたことで、DXを活用した授業改善のイメージが具体化し、「何から始めればよいか分からない」状態から「自分もやってみよう」という前向きな意欲へと変容しています。また、チェックリスト等を通して自らの授業を省みる契機となり、問いを立てる力や夢中になる力を育てる授業設計、デジタルとアナログのベストミックスを志向する意識が高まりました。LDXS事業の狙いである「問題発見・解決に向かう主体的な学び」の重要性を再確認し、各校・各教室で具体的な一歩を踏み出そうとする機運が醸成されたことが、本事業の大きな効果と言えます。
４－３．今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい　②次年度に予算化を図り推進する
４－４．事業の最終的な目指す姿	デジタル技術の活用を通して、児童一人ひとりが「自ら学び方を選び、仲間と協働しながら課題を追究していく学び手」として育ち、その姿が学校全体の文化として定着している状態です。端末やクラウド環境の整備を前提に、教師が一方的に教える授業から、児童の思考や対話、表現が中心となる授業へと転換し、DXを「便利な道具」としてではなく、「主体的な学びを支える基盤」として活用している学校像を目指します。同時に、授業づくり・評価・校内研修・情報共有といった校務全体においても、DXの活用により無駄や属人性を減らし、教職員が「子どもの学び」に時間とエネルギーを集中できる組織体制を構築します。そのうえで、本校の取組と成果を市内外の学校と共有し、地域の教育DXをけん引するモデル校としての役割を果たすことが、本事業の最終的な目標です。

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past year all houkoku/

掲載許可	○掲載可

なお＜その他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

６．地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における**地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」**を数枚程度貼り付けて下さい。